

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-345095

(43)公開日 平成 6 年(1994)12月20日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 21/08		9340-3E		
1/02	B			
1/44				
F 1 6 J 3/04	B			

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平5-154444

(22)出願日 平成 5 年(1993) 6 月 1 日

(71)出願人 593121265

日浦 正夫

埼玉県朝霞市三原 3-34-23

(72)発明者 日浦 正夫

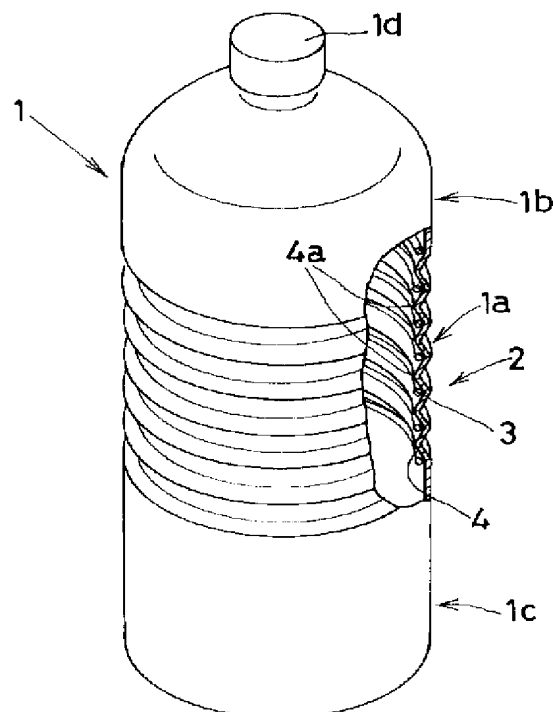
埼玉県朝霞市三原 3-34-23

(54)【発明の名称】 液体用容器

(57)【要約】

【目的】 液体の運搬に適し、かつ使用にも適した液体用容器を提供すること。

【構成】 本発明の液体用容器は、容器 1 の胴部 1 a に蛇腹状の伸縮手段 2 を配設し、該胴部 1 a を伸縮自在にしている。そして、伸縮手段 2 は、剛性を有するリング状の線材 3 と、該線材 3 を覆い、線材 3 間で折り目 4 a を有する、剛性をもった合成樹脂によって成形されたシート材 4 とによって構成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 容器の胴部に蛇腹状の伸縮手段を配設し、該胴部を伸縮自在にしたことを特徴とする液体用容器。

【請求項2】 上記伸縮手段は、剛性を有するリング状の線材と、該線材を覆い、線材間で折り目を有し、剛性をもった合成樹脂によって成形されたシート材とによって構成されていることを特徴とする請求項1記載の液体用容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、液体を入れる容器に関する。

【0002】

【従来の技術】近年では、液体用容器として、ガラス瓶に替えて合成樹脂の瓶が普及している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、合成樹脂の瓶は、ガラスに較べて弾力性があるので、衝撃が加わった場合でも破壊されることはないが、大きく変形するほどには柔軟性がない。したがって、容器をケース等に入れて運搬する場合には、他のものと干渉してしまいケースに収容できない場合がある。ビニール袋等に液体を入れれば、容器は自由に変形するが、容器内で液体が不安定になり、極めて取扱いが悪くなる。

【0004】そこで、本発明の目的は、液体の運搬に適し、かつ使用にも適した液体用容器を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の液体用容器は、容器の胴部に蛇腹状の伸縮手段を配設し、該胴部を伸縮自在にしている。

【0006】さらに、本発明の液体用容器は、伸縮手段が、剛性を有するリング状の線材と、該線材を覆い、線材間で折り目を有し、剛性をもった合成樹脂によって成形されたシート材とによって構成されている。

【0007】

【作 用】本発明の液体用容器は、伸縮手段が伸縮するので、容器の高さを内容物の量に合わせて調節でき、また、運搬に際しても他のものと干渉しないように容器を曲げることができる。

【0008】さらに、本発明の液体用容器は、容器を縮小した状態に維持できるので、特に炭酸水等を収容する場合には、容器を縮小して空間を少なくすることによって、炭酸等の蒸発を防ぐことができる。

【0009】

【実施例】図1乃至図4は、本発明に係る液体用容器を示している。

【0010】この容器1は、合成樹脂によって形成されている。容器の胴部1aには、蛇腹状の伸縮手段2が構

成されている。この伸縮手段2は、剛性を有するスパイラル状の線材3と、該線材3を覆い、線材3間で折り目4aを有し、剛性をもった合成樹脂によって形成されたシート材4とによって構成されている。シート材4は、容器1の頭部1bおよび底部1cを形成している部材と同じものを採用し、頭部1b、胴部1aおよび底部1cを一体に成形してもよい。なお、頭部1bには、キャップ1dが装着される。

【0011】このように構成された液体用容器1は、頭部1bを底部1cに向けて押し下げると、図2に示したように、胴部1aのシート材4がスパイラル状の線材3を巻き込むようにして折り畳まれ、図3に示したように縮小される。

【0012】このようにして折り畳まれた胴部1aに、該胴部1aを引き伸ばそうとする力（図2において矢印で示した方向の力）が働いた場合、重なりあったシート材4の内側のシート材4bがその動作に抵抗するため、胴部1aは、容易には引き伸ばされない。なお、大きな力加わり、内側のシート材4bがその力に抗しきれなくなると、内側のシート材4bが撓んで、外側のシート材4cとともに、図2に示したような元の状態に復帰される。

【0013】したがって、この容器1によれば、その容積を液体の量に合わせて任意に変更できる。このことは、ケース等に収容させて持ち運ぶのに有利である。また炭酸水等を収容した場合には、容器1を収縮させることによって、空間部を少なくし、かつ容器1内の圧力を高めることができ、それによって、炭酸ガス等を液体内に封じ込めておくことができる。

【0014】さらに、この容器1では、図4に示したように、胴部1aを湾曲することができ、ケース等に収容する場合に他のものと干渉することなく収容できる。

【0015】なお、上記実施例では、リング状線材としてスパイラル状線材を使用しているが、端部が互いに結合された、無端リングを複数個上下方向にほぼ等間隔に配置させてもよい。

【0016】

【発明の効果】上記したように、本発明に係る液体用容器では、内容積を任意に縮小したり、容器全体を湾曲させることができ、炭酸水等の容器として、極めて有効であり、かつケース等に収容する上で、有利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る液体用容器の一部を断面にして示した斜視図である。

【図2】本発明に係る液体用容器の胴部を縮めた状態を示した要部断面図である。

【図3】本発明に係る液体用容器の胴部を縮めた状態を示した正面図である。

【図4】本発明に係る液体用容器の胴部の一部を縮めて湾曲させた状態を示した正面図である。

【符号の説明】

1 液体用容器

1 a 胴部

1 b 頭部

1 c 底部

1 d キャップ

2 伸縮手段

3 線材

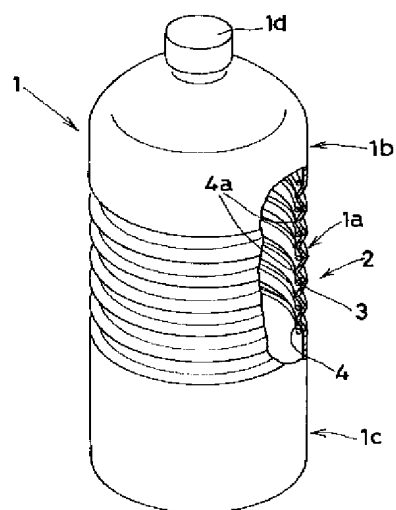
4 シート材

4 a 折り目

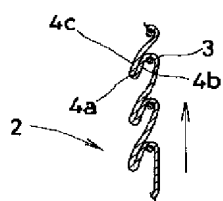
4 b 内側のシート材

4 c 外側のシート材

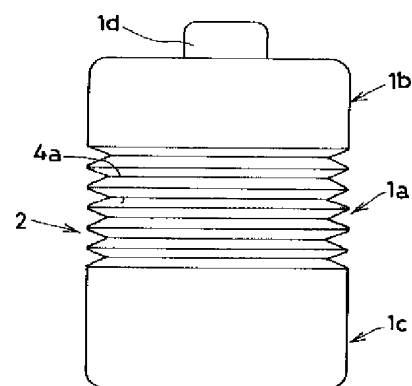
【図1】



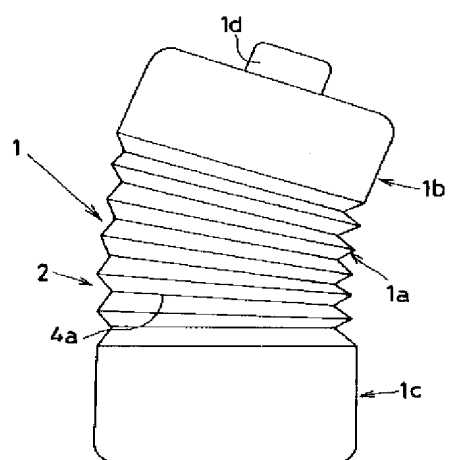
【図2】



【図3】



【図4】



PAT-NO: JP406345095A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06345095 A
TITLE: LIQUID CONTAINER
PUBN-DATE: December 20, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HIURA, MASAO	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HIURA MASAO	N/A

APPL-NO: JP05154444
APPL-DATE: June 1, 1993

INT-CL (IPC): B65D021/08 , B65D001/02 , B65D001/44 ,
F16J003/04

ABSTRACT:

PURPOSE: To offer liquid containers suitable for transport and use of liquid.

CONSTITUTION: A container 1 provided with a bellows-shaped means of expansion 2 on the waist 1a so that the waist can expand and contract freely. The means of expansion 2 is constituted by rigid ring-shaped wires 3, and a sheet 4 of rigid molded synthetic resin that covers the wires 3 and has folds 4a between the wires 3.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO